

ATELIER D'ÉTÉ
DE
MOTUS PARIS 2006

モテュス夏期アトリエ
パリ 2006

ATELIER D'ÉTÉ DE MOTUS PARIS 2006 **モテュス夏期アトリエ・パリ 2006**
『ミュージック・アコースマティック/コンクレート作曲・演奏アトリエ』

主催 フランス側：MOTUS Editions musicales, projection du son, production, formation

Denis DUFOUR ドゥニ・デュフル氏

62 avenue de Flandre 75019 Paris France

日本側：音と音楽・創作工房116 (ACSM116)

磯村尚徳会長

〒160-0001 東京都新宿区片町6-7-804

開催期間と開催地：

2006年8月2日～12日(11日間)

フランス、パリ市、15区コンセルヴァトワール フレデリック・ショパン

43番地 パルグ通り パリ75015

Conservatoire municipal F. Chopin 43 rue Bargue 75015 Paris France

夏期アトリエ概要：

モテュス夏期アトリエ・パリ- クレスト2006は、ミュージック・アコースマティック/コンクレートの作曲法と演奏法の講習を目的とした夏期アトリエです。作曲においては、デジタル・ワーク・ステーションを用いて、作品制作を行います。演奏においては、スピーカーのオーケストラであるサウンド・プロジェクション・システム”アコースモニウム・モテュス (Acousmonium Motus)”を通して、作品を演奏することを学びます。アトリエ最終日には、制作作品発表コンサートを行います。

夏期アトリエ内容：

ミュージック・アコースマティック/コンクレートの歴史、伝統的な主要作品の解釈や分析の授業、作品に用いる素材の録音実習、作品制作を行うコンピュータやデジタル・オーディオ・ツールの操作テクニックの演習、作曲実技レッスンなどが行われます。演奏においては、演奏に携わるテクノロジーについて、アコースモニウム・モテュスのセッティングについて、コンソール操作法(音の強弱や濃度、空間、音色などの演出方法)やサウンド・プロジェクションの演習などが行われます。参加者の興味やレベルに応じて、クラス別授業や個人レッスンが行われます。

教授陣：

作曲法 : ドゥニ・デュフル

アコースモニウム演奏法 : ジョナタン・プラジェ

アシスタント(作曲・演奏) : 檜垣智也

スタッフ : ベランジェール・マクシム、オリピエ・ラマルシュ

通訳 : 成田和子、他1名

講習場所：フランス、パリ市、15区コンセルヴァトワール フレデリック・ショパン

デジタル・ワーク・ステーション(コンピュータ:マッキントシュ、PC、ソフトウェア:プロ
ツールズ、サウンドプロセス・プラグイン)を備えたスタジオ(4)、録音室(2)、

モーリス・オアナオーデトリウムホールにモテュスのアコースモニウム Aacousmini を設置
(チャンネル数24、スピーカー数40個以上)、視聴覚室(2)、休憩室(1)

対象者：

モテュス夏期アトリエ・パリ- クレスト2006 は、ミュージック・アコースマティック/コンクレートの作曲や演奏を行っている、まだ行っていないがミュージック・アコースマティック/コンクレートの作曲や演奏に興味があり音楽活動に取り入れたいと思っている、音楽分野(専門やジャンルは問いません)で活動している(プロフェッショナルまたはアマチュア)などの方々を対象とします。

講習費： 1人1100ユーロ

講習費の納入は、フランス側主催者MOTUSの口座への送金をお願いいたします。

航空運賃および滞在費は別途個人負担となります。航空券の手配は個人で行っていただき、現地集合となります。パリ滞在については、パリ大学国際都市の宿泊施設（一泊2200～2500円）の利用を申込みことができます。希望者は日本側主催者”音と音楽・創作工房116”にお申し込み下さい。グループ予約を行います。宿泊料金（前払い）の日本からの送金は、”音と音楽・創作工房116”が代行します。

特典 : モテュス夏期アトリエ・パリ2006の参加者にMOTUS Collection のCD 2枚を進呈。

コンサート : モテュス夏期アトリエ・パリ2006最終日に制作作品発表コンサートを開催。
日本におけるコンサートは 2007年の2月に開催予定。

応募方法 : 別紙の申込書に記入の上、所定の様式の書類に1. 応募した動機、2. 履歴、をフランス語または英語でご記入下さい。すでに作品（必須ではありません）がありましたら、音源（CDなど）を添えて下さい。

応募期間 : 2006年5月31日（必着）まで受け付けます。応募書類は下記のアドレスにご郵送下さい。書類を受け付け次第、フランス側主催者MOTUS Editions musicales, projection du son production, formationに書類を送し、MOTUSの返事を応募者に連絡します。履歴書の書き方、講習の詳しい内容などに関するお問い合わせは、ファックスまたはメールで随時受け付けています。尚、応募者が極端に少ない場合、モテュス夏期アトリエ・パリ2006が開催されないこともあります。

応募先 : 音と音楽・創作工房116 (ACSM116)
〒160-0001 東京都新宿区片町6-7-804 FAX: (03)5312-6576)

問合せ : E-mail : thigaki@motus.fr (檜垣智也)
E-mail : knarita@dwc.doshisha.ac.jp (成田和子)

音と音楽・創作工房116 (ACSM116)

“音と音楽・創作工房116” (ACSM116)は、現代音楽、電子音響音楽やアコースマティック音楽の分野において、日仏の音楽家、作曲家や研究者らの交流を促進する目的で2001年に設立されました。INA-GRM（フランス国立視聴覚研究所・音楽研究グループ）と共催で“ミュージック・クリエーション夏期アトリエ”をパリで開催、またMOTUSと共催で作曲とアコースモニウム演奏のための“MOTUS夏期アトリエ”をパリで開催しています。これらの夏期アトリエは、電子音響音楽やアコースマティック音楽のコースとして定評を得るようになり、毎年、日本から多くの音楽家、作曲家や研究者が参加しています。

また、夏期アトリエで制作された作品のCDの出版や、“コンテンポラリー・コンピュータ・ミュージック・コンサート” (CCMC) の開催、フランスの作曲家の招聘や作品発表などを通して、日仏の音楽創造の発展に寄与しています。2003年より、CCMC参加作品の中から優秀作品を選出し“音と音楽・創作工房賞”の授与を行っています。<http://www.acsm116.com/>

Motus

ドゥニ・デュフルが率いるMOTUSは1996年創立、SACEM（フランス著作権協会）、DRAC、イル・ドゥ・フランス、パリ市などから助成を得て、年間に100回に及ぶアコースティック作品の上演コンサートを行っている。アコースモニウム（スピーカーのオーケストラ）と呼ばれる2つの可動式サウンド・プロジェクション・システムを持ち、プロフェッショナルなアコースモニウム演奏家がメンバーとなっている。電子音響音楽コンサートにとどまらず「アンサンブルMotus」がライブや器楽作品の演奏も行ない、コンサート・シリーズやフェスティバル「Futura」や「Syntax」で活躍している。また、音楽教育機関として、マスタークラス、アコースモニウム演奏や電子音響音楽の作曲のアトリエ、レクチャーなどを定期的に開催している。独自のCDラベルで、器楽作品シリーズの「collection「Motus>Aujourd'hui」」や、アコースティック作品シリーズの「Motus>Acousma」をリリース、書籍や楽譜の出版も行っている。

アコースティックというジャンルについて

ドゥニ・デュフル & トマ・ブランドー 翻訳：鈴木理香

アコースティックな作品とは何か？

アコースティックとは、音響の芸術である。そこから生まれた作品は、媒体を通して存在する。つまり、それらは決められたあるフォームに固定（録音）され、私達はその媒体を読み取ることによってのみ、姿を現わすのである。例えば40年代の終わりにはレコード、そして次にテープレコーダーの磁気テープへ。現在ではコンピューターのメモリー等がその媒体といえる。

アコースティック・ミュージシャンにとってこの媒体は、例えて言えば彫刻家にとっての石、画家にとってのキャンバス。写真家にとってはボジに当たり、映画監督にはフィルムに相当するだろう。彫刻家とその扱う素材のように、アコースティック・ミュージシャンは、音素材を削り、構築し、しばしば違う姿に変

えたりする。画家と色彩の関係のように、音を並べたり、混ぜ合わせたり、変化させたり、構成したりする。写真家のように、捉えて枠に納め、ライトを照らし、二重焼きをする。そして最後に、映画監督のように、時間の規定をし、動きを与え、モンタージュをし、コントラストを持たせる。反復したり間をもたせ期待させたり、連続性を持たせたりあるいは切断したり、流れるようになめらかにしたり、また、衝突させたりしながら。では、実際どのように？まず主要な一番始めの素材 - つまりその意味を最大限に広義に捉えた「音というもの」を基にする方法、あるいはすでに録音された音を基にする方法がある。その一つとしてアコースティックな音を使うとする。それは、各々の「鳴り方」の特性によって選ばれた様々な楽器（音を発する物）や、特有な出来事によって占有されている世界や、物事の展開、仕種あるいは故意に演奏されたシーケンス等によってできているかもしれない。更に、「具象的」な音、或いは伝統的な、もしくは「エキゾチック」な楽器の音等によってできていることもある。もう一つは音響合成。それは、シンセサイザーで演奏された音そのものや、シーケンスあるいはデジタル音、ソフトウェアでプログラミングされた音、リアル・タイムで変化された音やシーケンス等で構成されることもあり得る。

さて、作曲家はこうして集めてきた音を一体どうするつもりだろう？分類し、整理し、選択する。分割や切断の作業をし、この最近の10年間に発展を遂げてきた最新のテクノロジーを駆使した様々な機械の設備されたスタジオで、多様な音の変換を試みる。モンタージュ、リヴァース、ループ、移調、サンプリング、圧縮、凍結、リヴァーブ、エコー、ディレイ、フィルタリング、ミキシング、アキュムレイト等はすべて、すでに長い間の実践と歴史を通して、その原理自体はかれこれ50年以上も提示されてきた基本的なオペレーションでもある。最新のテクノロジーを使っただけのこれらのオペレーションは今後、最も洗練された妄想やとても有りえないような夢を形にすることを可能にするだろう。ただし、作業をする作曲家自身に自分の生み出したい、人に聴かせたい世界についてのアイデアがすでにある場合はなしだが。

少なくとも作曲家に十分に豊かな音の世界が備わっているならば、彼自身の技量やこつ、繊細さ、勘、演奏の嗜好等が仕事のディテールを示唆するだろう。全ての段階において自分の作業の結果を聴きながら。このように、作業とそれを聴くということの間を絶え間なく行きつ戻りつしていると、だんだんと作品が精製されてゆく。作曲家の意志や、あらかじめ決まっていたプロジェクト（テーマ、音の世界、大きな意味でのフォーム、分割の仕方などの選び方等）と同じくらい、感性が大切になってくるという仕事の進め方をする中で、シンクロナイズ、アクシデント、コントラスト、相似変換、回折、集中などを使用することによって新たな「エクリチュール」の発明や工夫が可能になる。厳格さと自由さ、構築のセンスと行為の嗜好、意志と受け入れ体制の柔軟さ加減等も、聴く耳を魅了し注意を惹き付ける（単なるビックリ効果を超えるものとして）一貫性のある作品に到達するために、必要な美点である。

最後に、映画監督のように、サウンド・プロジェクション・システムを通して聴衆に自分の作品を聴かせる。このシステムとは、様々な色彩や多様な出力を持ったスピーカーの集合体（スピーカー・オーケストラ）でできていて、コンサート空間、ギャラリー、美術館、その他公共の場所で使われる。コンサート、音響設備、その他全てのアコースティックな表現をする形態を作曲者が選ぶのである。我々が「演奏」と名付けることのできるもの（設備の設置の仕方、空間性、強弱や色彩に関する試み、フィルタリング）を通して、彼は自分の作品を聴衆に近付けることを可能にし、そのあとただ一つ、人々を聴くということの喜びに委ねさせるのだ

INSCRIPTION **登録**

A4の用紙に下記の項目について、フランス語か英語でお書き下さい。

1 .
Motivations pour la participation à l'ATELIER D'ÉTÉ DE MOTUS PARIS 2006 / Motivations of participation in course of ATELIERS D'ÉTÉ DE MOTUS PARIS 2006/ モテュス夏期アトリエ・パリ2006への応募動機:

2 .
Biographie / biography / 履歴:
Nom /family name / 姓:
Prénom / first name / 名:
Sexe / sex / 性別:
Nationalité /nationality / 国籍:
Date de naissance / date of birth / 生年月日:
Domicile légal / legal domicile / 本籍地:
Domicile actuel / present address / 現住所:
Téléphone / telephone / 電話:
Courrier électronique /Email /電子メール:
Études / educational background / 学歴:
Diplômes / diploma / 学位: Prix / prizes / 賞などあれば:
Expériences professionnelles / professional experiences / 職歴、音楽歴などあれば:

下記の項目は、日本語でお書きください。登録用紙とともにご郵送ください。

..... (切り取り線)

ATELIER D'ÉTÉ DE MOTUS PARIS 2006 モテュス夏期アトリエ・パリ2006
『ミュージック・アコースマティック/コンクレート作曲・演奏アトリエ』

申 込 書

氏名:

印

生年月日:

現住所:

〒

Tel/Fax:

E-mail:

備考欄:

(出国、帰国、滞在に関するご予定をお書き下さい。パリ大学国際都市の宿泊施設の利用を希望する方など)